

## 子ども家庭福祉プロジェクト 冬の講座報告

大阪北支部 尾上浩美・堀江美香

子ども家庭福祉プロジェクトでは、2023年度の冬の講座として、非行・犯罪傾向のある子ども・若者の支援に関する3回連続講座を開催しました。各回のテーマ、講師は以下の通りです。①1月25日「自分の痛みに鈍感な若者の支援～少年院、児童自立支援施設退所者への支援現場から～」野田詠氏さん(NPO法人チェンジングライフ理事長)②2月8日「少年院でのソーシャルワーク～少年非行の現場から～」松本喜美江さん(大阪府・和歌山県SSW、和泉学園社会福祉士)③2月22日「グリ下で出会う子ども・若者」野津岳史さん(認定NPO法人D×P)。紙面の都合上、第1回のみ詳しい報告を掲載します。

アドラムキリスト教会の牧師でもある野田さんは自身も非行の道を歩み更生した経験から、人は変わり、やり直せることができるといった信念を持ち、現在は児童養護施設や刑務所、少年院を出所した子ども・若者の支援者として活動されています。少年たちの更生や自立を支援する活動を通じて、野田さんが感じておられることを事例も含めてお話しいただきました。

自立準備ホームや自立援助ホームでは、安心して自立できる環境を整備していくことを心がけておられます。家族と一緒に何かをする、という経験に乏しい子どもが多いため、お誕生会、自炊指導などを含め、一緒に食事や外出する体験を大切にされています。また、少年たちの自信につながる資格取得へのチャレンジで成功体験を積み上げ、自己肯定感を高める取り組みもされています。

野田さんが、更生支援で心掛けていることもご紹介いただきました。一つ目は、心に傷をもった少年たちが表出する事象にリンクしている、トラウマと向き合うことです。人を傷つける言動や生意気な態度として表出した事象の背景にある少年たちの苦しみや孤独を思い量って関わらないと、効果的な支援にはつながらないとのことでした。

二つ目は、段階的更生を期待する心。入所者は就労を求められますが、就労意欲の前に、まず生きる意欲がない人も多くいます。傷つき体験を多く持つ少年たちは自分の孤独や苦しみに向き合わないことで防衛し、自分を保とうとするのも多いのですが、自分の痛みに鈍感になっていると、人の痛みにも鈍感になります。そうした少年たちに長い時間をかけて、細く長く付き合っていくということが大切だ、と仰いました。

支援者の時間軸で物事を測ると、なんでできないんだ、なんで働かないんだと、不満や、要求ばかりになりがちですが、支援者の時間軸を押し付けず少年たちの時間軸や力を尊重することで可能性が引き出されていくことを実感しているそうです。野田さんは「君が嫌になって離れることはあっても、俺は絶対にいなくなるよ」と伝えておられます。この言葉は自身が恩師の牧師さんに言われてとても心強かった言葉だそうです。その覚悟をもって少年たちと関わっておられます。

三つ目は反社会的集団よりあたたかく、ということです。あったかい食事、住居、居場所、携帯電話もくれる反社会的集団よりも、福祉があたたかく優しくないと、犯罪に関わる若者たちを防げないという決意に共感しました。

支援者として伴走するためには、「無力、傾聴力、一緒に悩む力」が必要との言葉も印象的でした。支援者は形の見える資源につなげたり、言語化して何か励まそうとしたりしがちですが、本当に傷ついて、生きることすら苦しい人に対して、専門性でその子を救えるのか、何もできない自分が無力だと感じ聞くことしかできないが、無力は人を支えることもできる、ただ聞いて、一緒に悩んでいくこと、その覚悟と技術が必要であるとのことでした。一人で抱え込まないために、一緒に考えてくれる伴走者がいることの大切さを感じました。

松本さん、野津さんのお話にも共通していたのは、加害や問題行動として現れる背景に、子ども・若者たちは、さまざまな被害体験や生きづらさを抱えていることです。少年院入所になる子ども・若者は家庭での虐待や学校等での孤立、いじめ被害などの経験がある人が多いとのことでした。再出発に向けて社会の様々な壁があるが、居場所と役割、信じられる人が必要との言葉が印象的でした。グリ下に集まる子ども・若者たちも、傷付きや孤立を感じる経験をしている人も多く、大人や社会への不信感もあります。野津さんのお話からは、彼らと少しずつ繋がる工夫をたくさん学ぶことができました。D×Pが開設したミナミのユースセンターでは運営や備品について彼らの意見を反映することで、徐々に本人たちの居場所になっていき、困ったときに人を頼ることを経験できる場になっていることがわかりました。

冬の講座の関連企画として、子ども家庭福祉プロジェクトでは、7月22日に和泉学園に見学に行きます。生きづらさを抱えた子ども・若者への視点をさらに深めたいと思います。

## 生涯研修センター情報 基礎研修を修了して

堺支部 泉 高広

基礎研修は、社会福祉士として必要な価値・知識・技術を学び、専門性の基礎を身につけるための研修で3つの課程で構成されています。

私自身は「2021年に基礎研修Ⅰ」「2022年に基礎研修Ⅱ」「2023年に基礎研修Ⅲ」を苦しいながらも何とか無事に修了することが出来ました。

参加中は、レポート(事前・中間・修了)作成に追われ講義内容を振り返る機会が少なかったのですが基礎研修を全て終了してから過去の講義内容を振り返ってみると研修受講前と比べ、私自身の理解度も深まっているように感じ研修を通じて「非常に良い時間を過ごすことが出来ていたんだな」と思いました。

研修内容は、グループワークが中心で毎回、グループメンバーも変わるので様々な分野で働く社会福祉士の方との出会いがありワークを通じて自分が働く分野以外の知識や考え方、リアルな情報を得る機会となり貴重な体験が出来ました。また、研修を通じて知り合いも増え、普段の仕事で繋がることもありました。

「社会福祉士は、社会福祉を取り巻く環境の変化による業務内容の変化に適応するため、相談援助に関する知識及び技術の向上に努めなければならない。」と研修の中で話があり「社会福祉士及び介護福祉士法」にも明記されているのですが私自身は、この一文に尽きると感じました。社会福祉士国家試験の合格がゴールではなく、社会福祉士になってからがスタートだと思っています。

私たちの周りの環境は常に変わり続けますので私たちも自己研鑽を続け「自分自身をブラッシュアップしていく」必要があるのではないのでしょうか？

社会福祉士会へ入会するメリットが感じられないという方も一定数いますが、私は先に入会されている先輩たちの姿や支部活動へ実際に参加してみて考えが変わりました。

自己研鑽の方法は、人それぞれですが基礎研修は、非常にありがたい仕組みだと感じ、学びも多い時間でした。今年度は今までの学びを生かし、基礎研修のファシリテーターとして活動したいと思っています。

## 地域情報

### 柏原市+東大阪市+八尾市=中河内

中河内支部 吉田絵理

中河内支部は、東大阪市(人口約48万人)、八尾市(同約26万人)、柏原市(同約7万人)の3市からなる地域で構成されています。会員数は227名(2023年9月現在)です。

分野別としては、地域包括支援センターを含む高齢者分野が多く、ついで、障害者施設、児童福祉施設、その他相談機関、社会福祉協議会、福祉事務所含む行政、独立型社会福祉士、教育機関、医療機関、救護施設、一般企業など所属先も様々です。勤務先のない方も研修への参加をされる方が多い地域でもあります。

そして、ご存知の通り、歴代大阪会長を多く輩出している支部でもあります。なんとと言っても日本社会福祉士会会長を今期も務めておられる西島会長も中河内に所属されています。

研修もさることながら、「名刺交換会」「多職種交流会」などと銘打って飲み会をし、顔の見える関係づくりをしている支部であります。理事長であろうが、施設長であろうが、センター長であろう

が、どんな肩書きでも関係なく、いつも「仲間」として気さくに参加される方の多い支部なのです。

今後も、現場に活かせる研修、制度の理解につながる研修、顔の見える関係となる研修(飲み会含む)など、企画して参ります。是非とも定員の枠が許す限り、他支部の皆さまのご参加も、お待ちしております。



中河内支部の Facebook

## 活動予定

8月

1 木	なにわだより発行
2 金	
3 土	子ども家庭福祉PT夏の講座
4 日	基礎研修Ⅱ/Ⅲ／受験対策:合同ゼミナール
5 月	相談C支援班会議
6 火	
7 水	
8 木	生涯研修部会／地域包括NW委員会
9 金	受験対策:フォローアップ講座
10 土	成年後見人材育成研修
11 日	(山の日)
12 月	(振替休日)
13 火	理事運営会議
14 水	
15 木	高齢者虐待対応研修:養護者／支部長事務局長会議
16 金	
17 土	
18 日	受験対策:合同ゼミナール
19 月	
20 火	
21 水	高齢者虐待対応研修:養護者
22 木	
23 金	受験対策:フォローアップ講座
24 土	
25 日	成年後見人材育成研修
26 月	
27 火	
28 水	
29 木	成年後見人継続研修(必須)
30 金	高齢者虐待対応研修:養護者
31 土	

9月

1 日	受験対策:合同ゼミナール
2 月	
3 火	
4 水	
5 木	
6 金	
7 土	
8 日	基礎研修Ⅰ
9 月	
10 火	高齢者虐待対応研修:施設従事者／理事運営会議
11 水	
12 木	生涯研修部会／地域包括NW委員会
13 金	受験対策:フォローアップ講座
14 土	
15 日	受験対策:合同ゼミナール
16 月	(敬老の日)
17 火	相談C運営会議
18 水	高齢者虐待対応研修:施設従事者
19 木	支部長事務局長会議
20 金	
21 土	
22 日	(秋分の日) 基礎研修Ⅱ/Ⅲ
23 月	(振替休日)
24 火	
25 水	
26 木	
27 金	受験対策:フォローアップ講座
28 土	子ども家庭福祉PT夏の講座
29 日	
30 月	

## 事務局よりお詫びと訂正

なにわだより6月号に同封させて頂きました2024年度定時総会資料について、間違い及び報告書の掲載漏れがありました。間違いが確認されたものは、地域包括支援センターネットワーク委員会、独立型社会福祉士ネットワーク委員会、国家試験受験対策・新会員入会支援事業の2023年度の各委員名簿、中河内支部2024年度事業計画です。掲載漏れがあったものは生涯研修センター生涯研修部会の2023年度報告書です。

訂正したものを大阪社会福祉士会ホームページに掲載しております。

会員の皆様に、深くお詫び申し上げます。

事務局長 原田 徹

# なにわの掲示板

### 本会HP会員ページのID/PWについて

会員ページの閲覧にはID/PWが必要です。ID/PWは新入会時の資料送付状に記載しています。わからない方は、必ずメールもしくはHPのお問い合わせフォームで会員番号・氏名を明記の上お問い合わせください。電話ではお答えできません。

### 住所・勤務先などの変更について

住所・職場・連絡先の電話番号など変更があった場合、本会HP会員ページへ変更届け出書を掲示していますので忘れずに提出してください。

### 法人賛助会員を募集しています。

本会の活動へご理解頂ける法人賛助会員を募っています。求人広告など賛助会員ならではの特典もあります。詳しくは事務局までお問い合わせ下さい。

### 事務局の電話・窓口対応時間について

事務局の電話対応時間を10:00~12:30、13:15~17:00とさせていただきます。ご不便をおかけしますが、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

### 本会推薦で公的委員に就任されている皆さまへ

日頃より当会の運営にご協力いただきありがとうございます。各自治体の公的委員(介護認定審査会、障がい支援区分認定審査会委員等)として本会が推薦し、それぞれの分野でご活躍されていると存じます。ご就任前に確認いただきました推薦基準を改めてお目通しください。

\*\*\*\*\*

公的委員への推薦に関しては、入会3年以上、基礎研修了者等の個人条件とともに次の要件も承認いただける方を推薦しています。

- 1 公平性を確保する観点より連続した推薦は**原則最大2期4年**とすること。
- 2 本会に対して**年間最大3万円**を上限に**報酬より2割程度**の一般寄付をお願いできる方

上記2点を推薦基準とし各支部にて候補者の推薦を行い、理事会で承認を行っています。

この推薦基準は公平性の観点から広く会員が公益活動へ参加していただく機会を確保すること、本会への寄付金が税額控除の対象となることもあり、多くの会員より一般寄付を募る体制を構築するために理事会で承認されたものです。

■本会推薦の委員会(審査会等)報酬等の寄付  
三井住友銀行 上町支店 普通預金 口座番号: 193438  
公益社団法人大阪社会福祉士会

なお、後見活動の寄付と一緒に寄付をする等のお話も伺いますが、寄付目的が異なりますので、必ず後見活動の寄付(ゆうちょ銀行、三菱UFJ銀行)と違い、上記の口座へお振込みをお願いします。

## 編集後記

ちょうど、今回号の編集時期は梅雨真っ只中で毎日ジメジメとしたうっとうしい天候が続いており、そろそろ熱中症に気を付けなければと思います。私事ですが、我が家のベランダ菜園のキュウリやトマトが最盛期を迎えつつあります。超新鮮な野菜をしっかりと食べて健康に努めなければと考える今日この頃です。

(たまちゃん)

# 大阪社会福祉士会 会員数(6月末現在) **2,410名**



公益社団法人 **大阪社会福祉士会**

Osaka Association of Certified Social Workers

〒542-0012 大阪市中央区谷町七丁目4番15号 大阪府社会福祉会館内(1階)

編集責任者: (公社)大阪社会福祉士会 会長 前川阿紀子

事務局開局時間/月~金の平日 10:00~12:30、13:15~17:00

TEL 06-4304-2772 FAX 06-4304-2773 E-mail [ofuku@oacsw.or.jp](mailto:ofuku@oacsw.or.jp) URL <http://www.oacsw.or.jp/>